

岡山国際協力大使

コスタリカ大学における日本語教育

今村貴子

コスタリカは中米の小さな国。首都はサンホセで、国立コスタリカ大学も首都サンホセにある。日本語の学生は約 100 人で、日本語は第 2、第 3 外国語として選択科目の 1 つとなっている。現在、3 クラスを担当し、各クラス週 6 時間を 2 日に分けて授業を行っている。学生の履修動機は日本語習得以外に、日本文化に対する興味もその 1 つである。なかでも習字の体験は学生にとって、とても楽しいものようだ。その要望に応じて学期に 1 度、習字の授業を行っている。そこでこの度、コスタリカでは手に入れることができない習字道具を岡山県から寄贈していただいた。何十本もの大筆小筆、墨汁に硯、半紙に至るまでそろえていただき、温かい気持ちが伝わってきた。岡山県の皆様、ありがとうございました。学生はというと、まだひらがなとカタカナしか学習していないにもかかわらず、漢字を見よう見まねでかいており、なかには T シャツにする学生もいる。露、均衡、村雨、など選んだ漢字も興味深い。いただいた道具を大切に使っていきたい。それを教えるのも日本語教育といえよう。



